

# 50年以上続く住民楽団を目指して!



楽団四季 Jolly forest Jazz orchestra  
(ジョリー フォレスト ジャズ オーケストラ)

事務局長

関内 恵美 さん

「ジャズは奥が深くて面白い!  
演奏中は夢中です」とにこやかに語る関内さん

みの~れと共に生活するスタイル  
Minole Life  
のすすめ No.100

山茶花が咲きはじめ、柿や柚子が黄色く色づき秋が深まっていく10月。お陰様で「Minole Lifeのすすめ」は100号を迎えることが出来ました。たくさん笑顔や、ピンチをチャンスに変えた人等々・まるで宝石箱のような『みのれ』で輝く人たちを紹介しています。今回は、楽団四季ジョリーフォレストジャズオーケストラの事務局長で、テナーサククスを担当する石岡市にお住いの関内恵美さん取材します。

## 4thライブは

### 自分たちが

### 一番楽しむかも?!

関内さんがみのれに関わるようになったのは、既にみのれに関わっていた友人に誘われ、演劇ファミリィMYUのスタッフとして参加したことがきっかけでした。「こけら落とし公演の『田んぼの神様』から『光れ!』まで裏方スタッフとして関わっていました。みのれが開館した翌年に、楽団四季を立ち上げるための準備委員会ができて、ピックバンドをつくることは決まっていました。当時、みのれの職員から誘われ、若い頃に少し楽器をやっていたというだけで、楽団立ち上げの委員に加わりましたが、周りは吹奏楽の経験者や楽器に携わっている凄い人ばかりでした」と当時の様子を話してくれました。

関内さんは愛知県出身で、中学・高校と友達とトリオを組んで独学で、フォークソングやニューミュージックをギターで演奏していたそうです。「当初、

楽団にはギター担当として入ったんですよ。でも、フォークとジャズのコードは全然違うんです。おまけに指の押さえ方も違ったり、譜面を見てもどんな曲だか全く分からない状態。ピックバンドってどんな曲を弾くんだろ」と不安でいっぱいだったそうです。

ところが、楽団四季ジョリーフォレストジャズオーケストラ(以降「J」)に入ってからジャズを聴くようになり、「テナーサククスの音が素敵だなと感じていたのと、ギターではなく管楽器をやりたい」と思ったこと、運よくブレイヤーに空きがあったことでテナーサククスを始めました。今考えると運命だったのかなとも思います。楽器を購入して10年になりますが、この楽器との出会いは、ますますジャズが大好きになりました」と関内さん。「J」は社会人中心のバンドです。「みんな仕事を休んでから練習に来ているので疲れているはずなのに、練習が終わると生き生きしているんですよ(笑)」。Jは幅広い年齢層のメンバーがいて、他の楽団の人からも若

い団員がいていいねと言われるようになりました。最近では地域の愛される楽団として、中学校に出向き中学生と一緒に演奏を行う活動も行いました。Jの事務局長をやって10年くらいになりますが、今の楽団を作り上げる過程で、平等に楽団員の意見をまとめながら活動ができるのは、みのれの職員の方々も力を貸してくれたからだと思います。改めて人との出会いの大切さを感じています」と笑顔で話してくれました。

12月6日の4thライブに向けて聞いてみると、「楽団員は、演出・広報・カフェのいずれかの担当になりライブをつくり上げます。今回のライブは、『お客様も自分たちも楽しむ!』というコンセプトなので、とにかく楽しい空間を作りたいと思います。ゲストも迎えるので、さらに盛り上がるライブになること間違いなしです!また、飲食をしながらジャズを楽しむ企画もなっていますので何倍も楽しめますよ」と話す関内さんがきらきらと輝いていました。

(藤田佐知子)